

平成10年度 和歌山県文化賞

さ わ たか みつ
佐 和 隆 光

住 所：京都府京都市

出 身 地：和歌山県伊都郡高野町

生 年：昭和17年

◎業績及び経歴

氏は、昭和17年に伊都郡高野町で生まれた。

昭和40年東京大学経済学部を卒業した後、同大学院にて理論経済学・経済史学を専攻し、経済学についての造詣を深めた。

昭和42年には同大学経済学部助手に就任し、昭和44年からは京都大学経済研究所助教授として、自己研鑽とともに、その知識により後進の指導に多大の尽力をした。

昭和45年には、こうした活動の中、氏が著した「計量経済学の基礎」が、日本経済新聞経済図書文化賞を受賞するに至った。

また、同年渡米し、スタンフォード大学研究員として、昭和50年からはイリノイ大学客員教授として、世界の中に自らを置き、世界の視点で我が国の経済を見つめた。

帰国した後、昭和55年からは、京都大学経済研究所教授として、多くの経済学を志す者に多大な影響を与えると同時に、従来よりの枠組みに捕らわれない自由な発想をもって、多数の文献を著した。

著書の中には、多くの専門書のほかにも、広く一般に経済学の仕組みとその魅力を伝えるための作品も多数存在する。

氏は、これまでに築いた経済学の知識を軸に、地球的規模での市場の透明性・公平性を確保し、自由経済を基本としながらも、より弱者に優しい経済、国際協調、持続可能な発展などを目指すグローバル・ケインズ主義を提唱し、実践のための研究を実施している。

特に近年は、環境問題にも積極的に取り組み、経済発展と資源・エネルギー問題及び環境問題という相反する問題を世界的規模で研究し、その問題解決に取り組んでいる。

平成9年には、こうした調査研究のまとめとして「地球温暖化を防ぐ」を出版し、具体的な政策提言として賞賛を浴びるとともに、同年開催された地球温暖化防止京都会議において採択された京都議定書を受け、今後、我が国においても取り組まなければならない諸問題について、経済学をとおして問題解決に多大な尽力を続けている。

我が国を代表する経済学者であるとともに、地球規模での環境問題の解決などにも精力的に取り組み、数々の業績を持つ氏は、本県の誇りである。

■現在

京都大学経済研究所長

国民生活審議会委員(経済企画庁)

中央環境審議会委員(環境庁)

(株)社会経済生産性本部 理事

■主な表彰歴等

昭和45年 日本経済新聞社出版図書文化賞